

新型インフルエンザへの対応について（第10報）

国立大学法人愛知教育大学
新型インフルエンザ対策本部長
学長 松田正久
2010年4月8日

1. 世界ならびに日本における流行状況

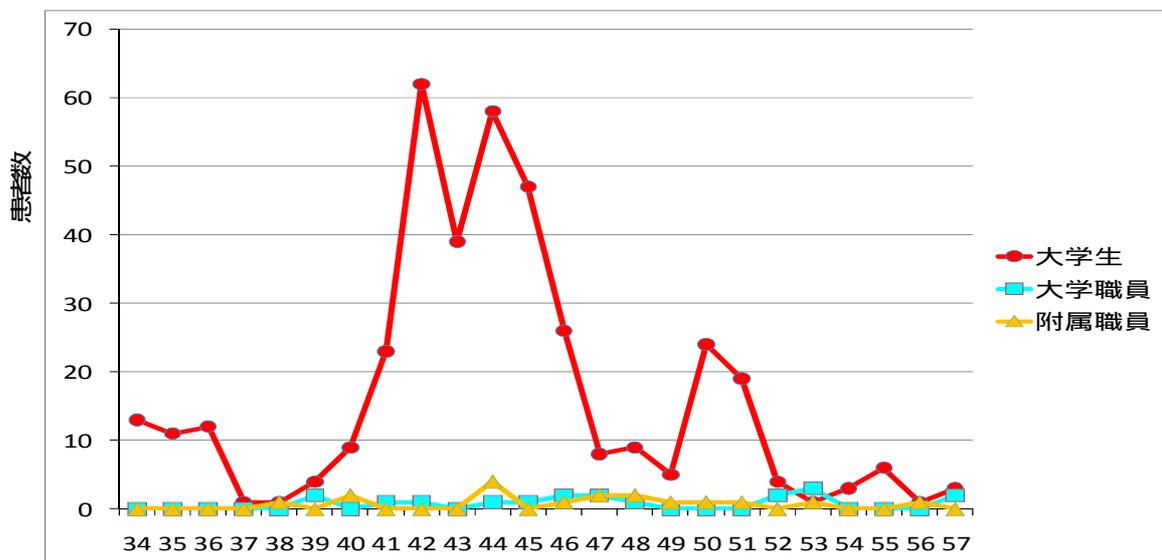
世界的には、北半球のほとんどの国で発症数が減っているが、北アフリカ、南・東アジアでは発症が続いている。死亡報告は総計15000人以上である（WHO、2010年2月）。

日本では、2009年12月中旬までに、推計1539万人がインフルエンザで医療機関を受診し、11723人が入院し、747人が重症化し、122人が死亡した（厚生労働省）。2010年3月時点で流行はほぼ終息している（国立感染症研究所）。

2. 本学における流行状況

昨年来の流行により、2010年2月までに大学職員の4.5%、附属学校職員の8.6%、学生の9.0%、附属学校園児・生徒の41.0%が発症したが、2010年4月現在では、新規患者発生の報告はない。

愛教大における週毎のインフルエンザ患者数の推移



（注） 34週 = 8月17日～23日 45週 = 11月2日～8日 57週 = 1月25日～31日

区分	大 学 職 員	附 属 職 員	大 学 生	附 属 学 校 園							
				全 体	幼 稚	名 小	名 中	岡 小	岡 中	特 支	高 校
在籍	398	198	4303	3287	155	814	510	700	487	59	562
発症	18	17	389	1348	45	401	178	366	168	31	159
発症率%	4.5	8.6	9.0	41.0	29.0	49.3	34.9	52.3	34.5	52.5	28.3

3 . 本学の対応の変更について

流行が終息したこと、症状が通常のインフルエンザと同様であったことから、当面、以下のとおり対処する。

- (1) 新たな豚 H1N1 インフルエンザ患者が発生した場合、通常のインフルエンザと同じ扱いとする。すなわち、解熱後 2 日までは自宅休養する、授業欠席学生への特別な配慮はしない。ただし、発病の届け出は、それぞれの所属に応じ、学生支援課、人事課、または各附属学校に行う。
- (2) 濃厚接触者の休業と届け出は、特段の事情がない限り、不要とする。
- (3) 個人が行う感染予防対策は、引き続き励行を勧める。マスクは、保健環境センターで随時、提供する。
- (4) 流行再燃、ウィルス変異による重症化などが生じた場合には、適宜、対策を見直す。

本学のこれまでの新型インフルエンザ対策については、下記参照ください。

<http://www.hokekan.aichi-edu.ac.jp/inful/index.html>